

びわこ文化公園植物だより〔β版〕

サツキ ツツジ科

- ・学名は *Rhododendron indicum*
- ・園内各所に植栽。花期は5月下旬～6月上旬



この時期のびわこ文化公園の東半分は、どこもかしこもサツキの花ざかりです。サツキとツツジはどこが違うのか？とはよく聞かれる質問ですが、

植物学的にはサツキはいろいろあるツツジ類の中
の一種といえます。ただ、花の咲く時期がサツキ
だけほかの多くのツツジ類より1か月ほど遅く、旧
暦の皐月(さつき)にかかるので、呼び分けている
というわけです。

サツキの野生品は関東から九州にかけての陰し
い溪谷の、増水すると水をかぶるような岩場には
えます。この植物が園芸植物としてブームを起こ
すまでになった最大の理由は、なんといっても花
色・花型の多彩な変化にあります。愛好家はこの
変化を「芸」といいます。サツキは、1本の木の中
でも枝によって花色が変わったり、1つの花の中
にも色の違う模様ができたりすることが多いのです。
これは、細胞の中にいたずら者の遺伝子がかくれ
ていて、花の色や形を決める遺伝子に気まぐれに
ちょっかいを出すためです。



公園のサツキは挿し木で大量増殖されたものなので、園芸品に多い紫を帯びた紅色のものがほとんどです。しかし、県立図書館前の植え込みでは、野生品に近い朱色の花をつける株も入り混じっているのが見られます(1ページ目写真)。そして、北駐車場から坂道をのぼって図書館へと向かう曲がり角付近では、白花のサツキもみられます。この白花のサツキをよく見てください。ところどころに紅紫色の筋がはいっているものが多いのです(上写真)。これは、この白花が完全に固定し

たものではなく、上記のいたずら者遺伝子のしわざであることを示しています。この遺伝子は花の色とおしべ・めしべの色に同時に影響を与えるようで、花びらの白い部分から出ているおしべは白く、紅色の部分から出ているおしべは紅色なのは何とも不思議です。

(龍谷大学農学部 三浦励一)

❀ 白花のサツキは[ここ](#)で見られます

(Google マップにリンク。10m程度の誤差が出ることがあります)